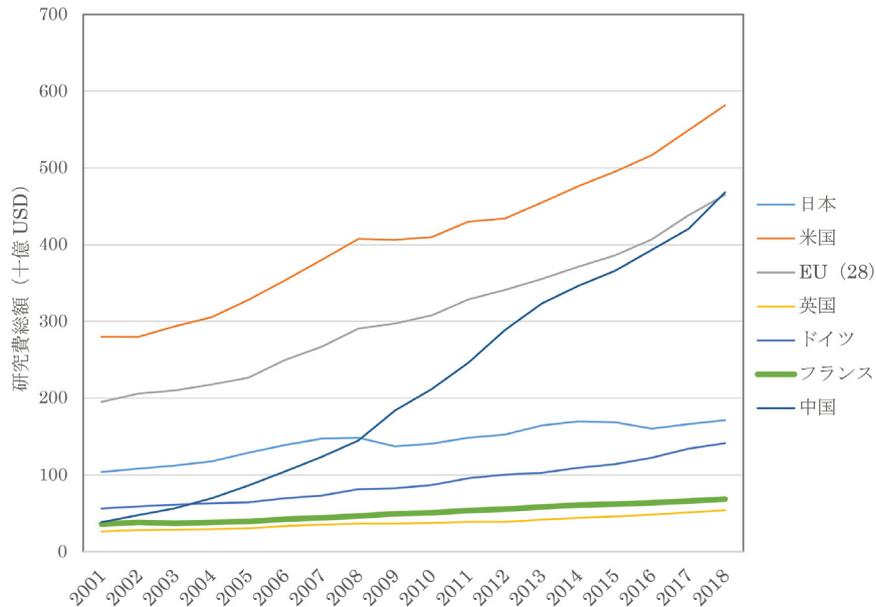


## 6.5 研究開発投資

### 6.5.1 研究開発費

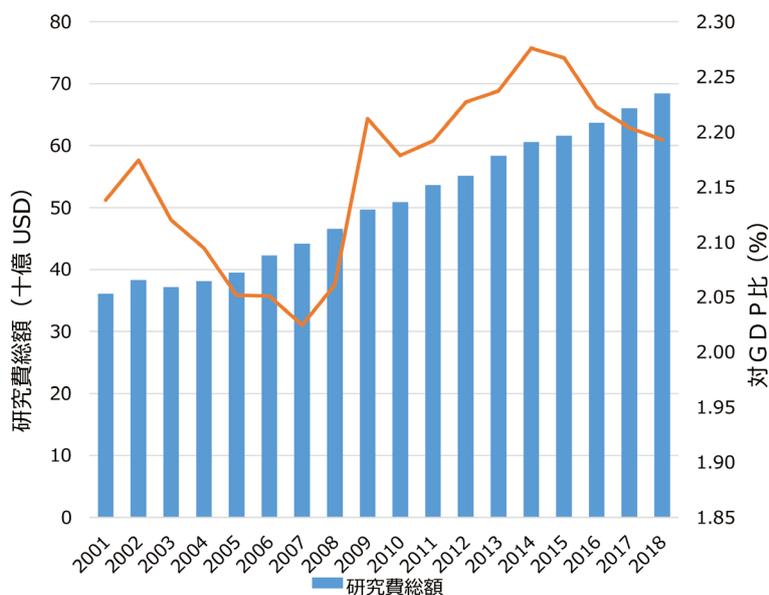
フランスの研究開発費の推移は下記OECDの統計によるグラフのとおりである。リーマンショックによる影響が2009-2010年に伺えるものの、全体として研究開発費総額はこの15年増加傾向にある。

【図表 VI-14】 フランスの研究開発費の推移



出典：OECD, Main Science and Technology Indicators

【図表 VI-15】 フランスの研究開発費と対GDP比の推移 (2001年度～2018年度)

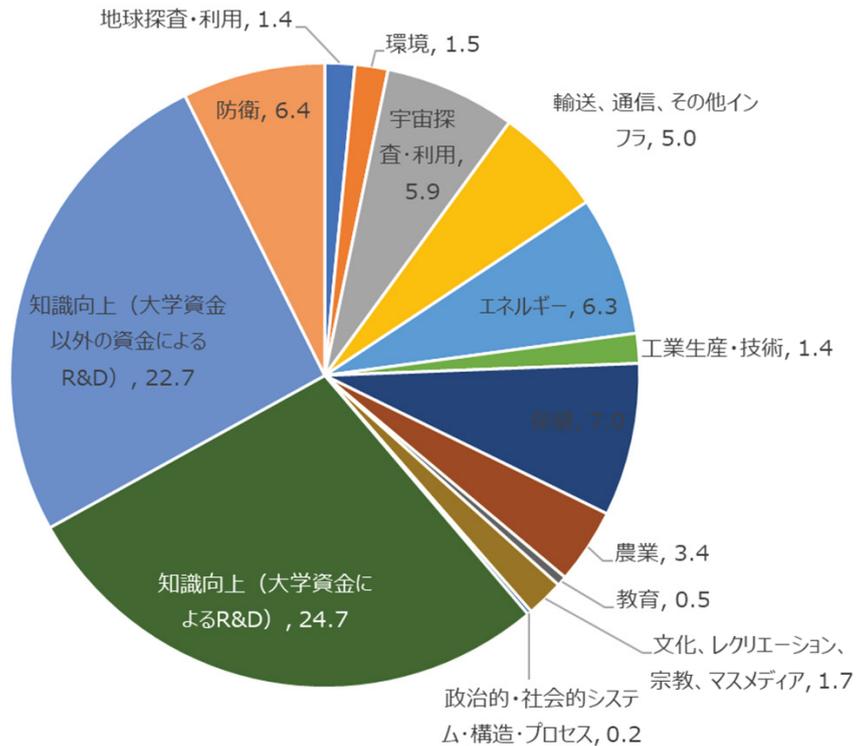


出典：OECD, Main Science and Technology Indicators

### 6.5.2 分野別政府研究開発費

OECDのScience, Techonology and R&D Statisticsによると、2016年の政府研究開発予算の分野別配分は、以下の図のとおりであった。大部分が知識向上であるが、分野の指定があるものについては、保健分野が7%で最も大きく、防衛6.4%、エネルギー6.3%、宇宙探査・利用5.9%と続いた。

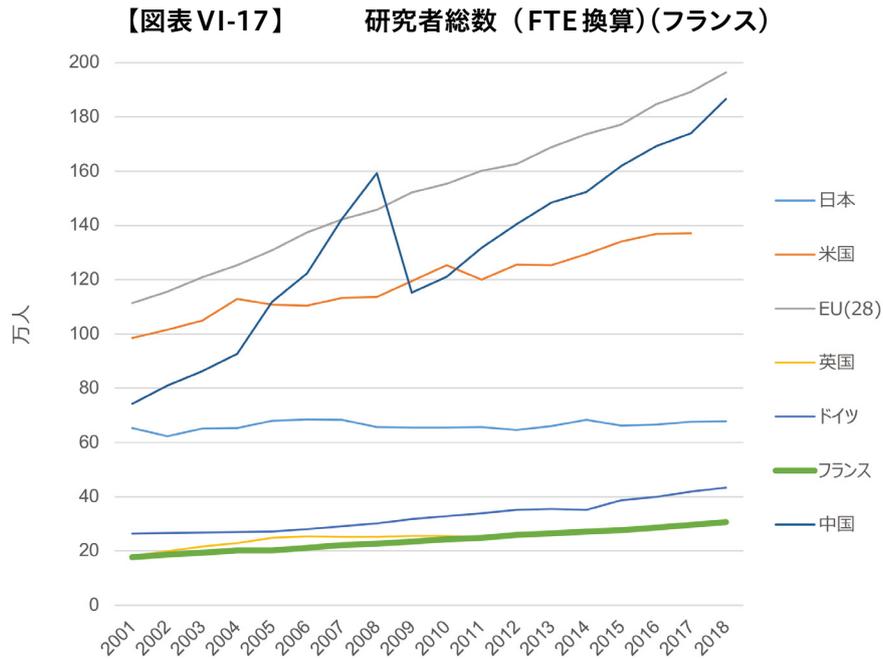
【図表 VI-16】 政府による研究開発投資予算 分野別割合 (2016年)



出典：OECD, Main Science and Techonology Indicators

### 6.5.3 研究人材数

研究人材数は一貫した増加傾向にある。なかでも2005年の「研究協約」以降、「若手助教授の教育負担軽減」、「大学と企業との関係強化による博士号取得者の企業による採用促進」といった、研究キャリアの魅力および柔軟性向上のための施策導入、推進により研究者数は、2018年に30万人以上となっている。主要国の中で総数では多くはないが、人口1万人あたりで見ると、日本、ドイツより少ないものの、英国とはほぼ同じ、米国と比べると多くなっている。研究人材数の増加傾向には、この成果としての一面があると推測される。

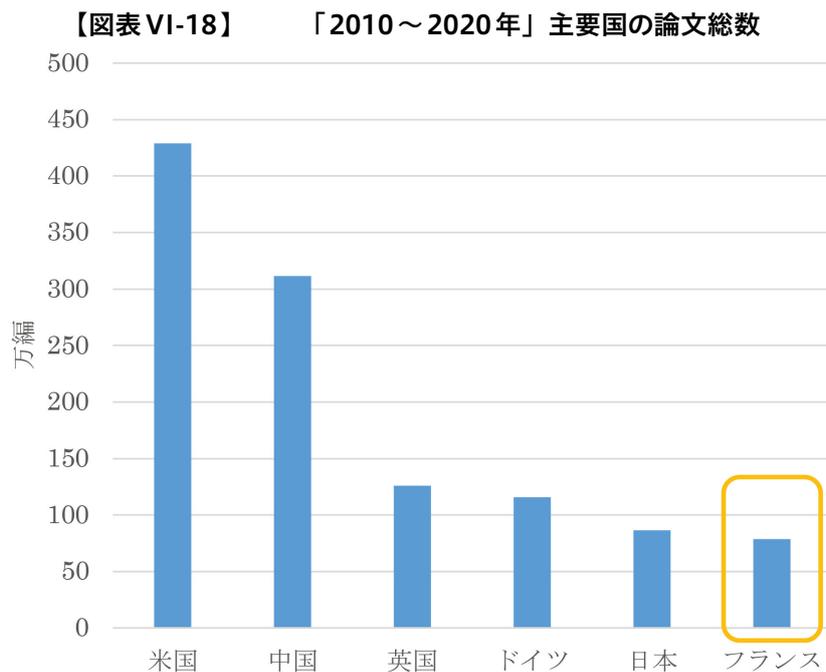


出典：OECD, Main Science and Technology Indicators

### 6.5.4 研究開発アウトプット

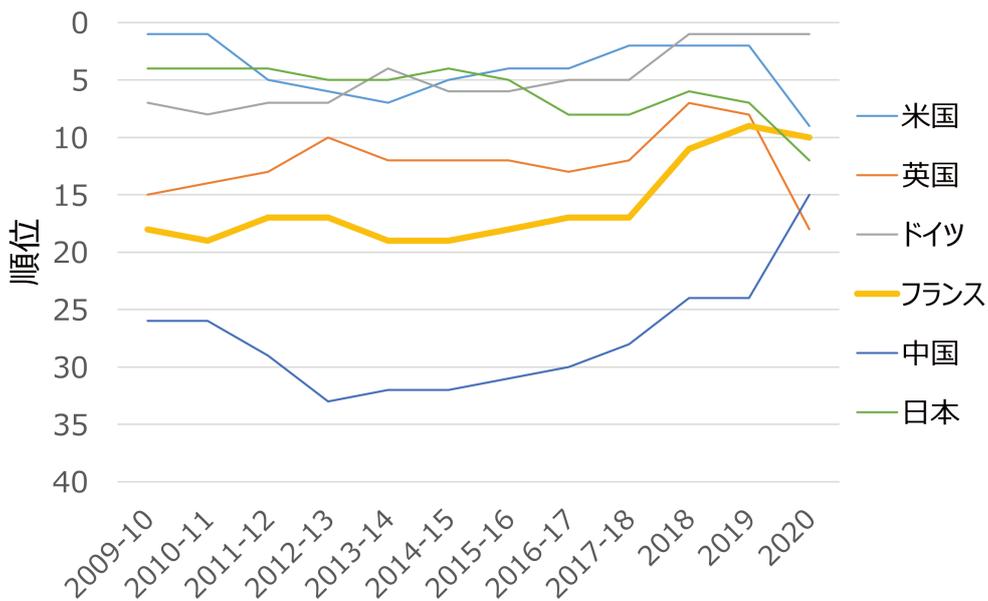
近年フランスの論文数、イノベーションランキング指標は共に上昇傾向にある。

イノベーションに関してはイノベーション所管省や経済・財政所管省を主体とした政府の様々なイノベーションやスタートアップ支援方針、取り組みなども背景にあると考えられる。



出典：クラリベイト・アナリティクス社 InCite essential Science Indicatorsのデータを元にCRDSで作成

【図表VI-19】 イノベーションランキング（フランス）



出典：World Economic Forumのデータを元にCRDSで作成